

# 教育委員会事務に係る点検・評価報告書

令和2年度（令和元年度事業対象）

令和2年12月

東金市教育委員会

## 【目次】

第1章	点検・評価の対象及び方法	1
第2章	教育委員会の諸活動	2
1	教育委員会委員の活動実績	2
(1)	総合教育会議	2
(2)	教育委員会会議の開催状況	2
(3)	研修・行事への参加	5
第3章	重点施策ごとの取組状況	6
1	東金市の基本理念	6
2	東金市教育振興基本計画の施策体系	6
3	教育委員会事務に係る点検・評価	8
	【学校教育・家庭教育の柱】	8
	【生涯学習・歴史文化の柱】	37
	【スポーツ振興の柱】	51

# 第1章 点検・評価の対象及び方法

## 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表するものとされています。

東金市教育委員会では、同項の規定により、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を実施し、報告書を作成しました。

## 点検・評価の対象

東金市教育振興基本計画『未来へつなぐ 教育のまち東金の創造』の中で掲げた、重点施策に対する事務事業の取組内容を対象として点検・評価を行いました。

## 点検・評価の方法

点検・評価に当たっては、東金市第3次総合計画をもとに、本市の目指すべき教育の姿と取り組むべき施策の方向性を示した東金市教育振興基本計画（平成28年度～令和2年度）の重点施策ごとに取組内容を評価し、定めた目標（値）の達成状況を明確にするとともに、今後の課題等に対する取組について検討しました。

また、学識経験を有する外部有識者からの意見を聴取し、知見の活用を図りました。

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

東金市教育振興基本計画の進行管理は、PDCAサイクル※に基づき行い、その結果、社会情勢の変化や事業の推進状況等を勘案し、必要に応じて適宜見直しをしています。

※PDCAサイクル Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）の4段階を繰り返すことで、継続的に改善を図る仕組み。

## 第2章 教育委員会の諸活動

### 1 教育委員会委員の活動実績

#### (1) 総合教育会議

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）が平成27年4月1日に施行されたことに伴い、市長と教育委員会が協議・調整する場として総合教育会議が設けられました。

令和元年度の開催状況は、次のとおりです。

開催日 令和2年1月21日

議題 児童虐待防止のための活動指針について

#### (2) 教育委員会会議の開催状況

東金市教育委員会では、毎月1回、教育委員会会議（定例会）を開催しています。令和元年度は会議を14回（定例会12回、臨時会2回）開催し、教育委員会の事務執行に関する事項等について審議等を行いました。

##### 【定例会の開催日】

平成31年4月23日、令和元年5月22日、同年6月20日、同年7月23日、同年8月20日、同年9月25日、同年10月23日、同年11月21日、同年12月18日、令和2年1月21日、同年2月19日、同年3月25日

##### 【臨時会の開催日】

令和2年3月2日、同月9日

教育委員会会議における議決事項及び協議事項の一覧

次の36件について、議決しました。

区分	件名
人事関係 (8件)	東金市教育研究所職員の委嘱について
	東金市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
	令和元年度教科用図書採択地区協議会委員の選出について
	東金市地区公民館長の任命について
	学校医の委嘱について
	東金市立幼稚園長の任免について
	東金市文化財審議会委員の委嘱について
	東金市スポーツ推進委員の委嘱について
条例・規則関係	消費税等の増税に伴う条例改正について (1)東金文化会館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

(14件)	(2)東金市中央公民館使用料条例の一部を改正する条例
	(3)東金市民スポーツ広場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
	(4)東金市トレーニングセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
	(5)東金アリーナ設置管理条例の一部を改正する条例
	(6)東金市都市公園設置管理条例の一部を改正する条例
	令和元年度教科用図書山武採択地区協議会規約の承認について
	東金市要保護及び準要保護児童生徒就学援助に関する要綱の一部改正について
	東金文化会館の管理に関する規則の一部改正について
	東金市立幼稚園管理規則の一部改正について
	東金市教育委員会顕彰規程及び基準の改正について
	東金市立幼稚園設置条例の一部改正について
	東金市立幼稚園の使用料の納期限を定める規則の一部改正について
	山武郡市広域行政組合格約の変更に関する意見聴取について
	市議会提出議案に関する意見聴取について
(1)東金市特別職の職員等の給与、旅費及び費用弁償に関する条例の一部改正について	
(2)東金市民スポーツ広場の設置及び管理に関する条例の一部改正について	
(3)東金市トレーニングセンターの設置及び管理に関する条例の一部改正について	
(4)東金アリーナ設置管理条例の一部改正について	
(5)東金市都市公園設置管理条例の一部改正について	
会計年度任用職員制度の導入に伴う規則等の改廃について	
(1)東金市社会教育指導員の設置に関する規則の廃止について	
(2)東金市社会教育指導員設置に関する施行規程の廃止について	
(3)東金市家庭教育指導員の設置等に関する規則の廃止について	
(4)東金市教育委員会組織規則の一部改正について	
地方自治法第180条の2の規定に基づく東金市長と東金市教育委員会との事務の補助執行に関する協議書の一部改正について	
東金市無形民俗文化財保存活動補助金交付要綱の制定について	
東金市図書館管理運営規則の一部改正について	
その他 (14件)	東金アリーナ外3スポーツ施設の使用料の額の改定に関する東金市スポーツ推進審議会への諮問について
	令和2年度使用教科用図書の採択について
	令和2年度東金市立幼稚園の園児募集について
	源小学校の統廃合について
	東金市教育委員会教育功労者の表彰について

教育委員会事務に係る点検・評価報告書について
源小学校統合に係る就学指定変更について
給食費の改定について
東金市教育委員会児童・生徒表彰について
東金市学校教育指導の指針について
給食費の改定について
東金文化会館・東金アリーナ外3スポーツ施設の次期指定管理の方向性について
新型コロナウイルス感染症に係る国からの一斉休業の要請を受けての幼稚園の預かり保育の実施及び預かり時間について
指定緊急避難場所等の指定について

次の事項について、協議しました。

件 名
行事の後援について
行事の後援について
教育委員会事務に係る点検・評価報告書について
スポーツ施設使用料の改正について
日吉台小学校・源小学校統合実施計画（案）について
行事の後援について

### (3) 研修・行事への参加

教育委員会委員は、教育委員会会議のほかに、研修や行事に積極的に参加し、教職員や他市町村の教育委員会委員、また市民や児童・生徒、保護者と意見交換するなど、現状や課題の把握に努めました。

参加日	研修・行事等
4月22日(月)	山武地区教育委員会連絡協議会 理事会・表彰者選考会(春)
5月17日(金)	山武地区教育委員会連絡協議会 総会・教育功労者表彰式(春)
5月21日(火)	千葉県市町村教育委員会連絡協議会 定期総会
9月27日(金)	山武地区教育委員会連絡協議会 理事会・表彰者選考会(秋)
10月13日(日)	東金市民体育祭【中止】
11月1日(金)	山武地区教育委員会連絡協議会 教育功労者表彰式(秋)
11月1日(金)	山武地区教育委員会連絡協議会・山武地区教育長協議会 合同研修会
11月1日(金)	山武地区教育委員会連絡協議会 情報交換会【中止】
11月3日(日)	東金市文化・芸能大会
11月15日(金)	千葉県市町村教育委員会連絡協議会 第1回教育長・教育委員研修会【中止】
11月21日(木)	東金市教育委員会 教育功労者表彰式
1月12日(日)	東金市成人式
1月30日(木)	千葉県市町村教育委員会連絡協議会 第2回教育長・教育委員研修会
2月24日(月)	2020東金・九十九里波乗りハーフマラソン【中止】
3月9日(月)	東金市教育委員会 児童・生徒表彰式【中止】

## 第3章 重点施策ごとの取組状況

東金市教育委員会では、平成28年3月に策定しました「東金市教育振興基本計画」をもとに重点施策について点検・評価を行い、その取組状況について教育委員会委員や学識経験者からの意見等をまとめました。

### 1 東金市の基本理念

#### 未来へつなぐ教育のまち東金の創造

歴史と伝統のある私たちの東金。

学校・家庭・地域が連携し、人を思いやり、人と人とのつながりを大切にする豊かな人間性を育みます。

夢や希望の実現に向け、自ら学ぼうとする意欲をもって、心身ともに健やかに、生涯にわたり学び続けられる機会の充実を図ります。

### 2 東金市教育振興基本計画の施策体系

基本方針	基本目標	重点施策
【学校教育・家庭教育の柱】 生きる力を育み、総合的な人間力をもった子どもたちの育成	1 基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、思考力や表現力の向上を図る	(1)確かな学力の育成
		(2)特別支援教育の推進
		(3)情報教育の推進
		(4)国際教育の推進
	2 自他を思いやる、豊かな心を育成する	(1)いじめ対策の推進
		(2)生徒指導の充実 (長欠・不登校解消に向けた取り組みの充実)
		(3)道徳教育の推進
	3 健やかな体を育成するとともに、体力の向上を図る	(1)学校体育の充実
		(2)健康教育の充実
		(3)食育の推進
	4 家庭・地域・学校の連携を強化する	(1)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進
		(2)学校評価の充実
		(3)家庭・地域の教育力の向上
		(4)学校施設の整備・充実



<b>【生涯学習・歴史文化の柱】</b> 生きがいをもって学び、ふるさとに誇りをもてる人づくり	<b>5</b> 人づくりから始まる生涯学習の推進を図る	(1)多様な学習機会の提供
		(2)青少年健全育成の推進
		(3)公民館事業の充実
		(4)図書館事業の充実
		(5)城西国際大学との連携
	<b>6</b> 歴史・文化を活用した地域力の向上を図る	(1)芸術文化団体活動の推進
(2)郷土の歴史と文化の保存、活用		
(3)文化施設の利用促進		
<b>【スポーツ振興の柱】</b> 健やかで活力に満ちたライフスタイルの支援	<b>7</b> 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの推進を図る	(1)スポーツ・レクリエーション活動の充実と推進
		(2)関係団体との連携とスポーツ指導者の養成
		(3)スポーツ施設の利用促進
	<b>8</b> 2020東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進を図る	(1)2020東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致
		(2)スポーツ人口の拡大

### 3 教育委員会事務に係る点検・評価

#### 【学校教育・家庭教育の柱】

生きる力を育み、総合的な人間力をもった子どもたちの育成

基本目標 1 基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、思考力や表現力の向上を図る

【所管：学校教育課・生涯学習課】

#### 重点施策 1－（1）確かな学力の育成

基礎的・基本的な知識や技能を習得し、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力の育成に努める。また一人ひとりが、主体的に学習に取り組み確かな学力の向上を図る。

##### (1)事業展開

- 1.一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな教育の推進
- 2.魅力ある授業づくりの推進
- 3.家庭学習の充実
- 4.豊かな心を育む読書活動の推進
- 5.放課後子ども教室の開催

##### (2)目標(値)

- ①全国学力・学習状況調査における全国平均値の達成
- ②千葉県標準学力検査における千葉県平均値の達成
- ③家庭学習の進め方について、指針の作成の検討
- ④蔵書の学校図書館標準100%の達成及びデータベース化に向けた準備

#### 取組(事業展開)

##### 1.一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな教育の推進

- ・各学校の実態を踏まえた「学力向上プランニングシート」を作成し活用した。
- ・市教務主任会で全国学力状況調査の分析から、学力向上のための意見交換をした。

##### 2.魅力ある授業づくりの推進

- ・ICT機器の活用方法を研究する東金市教職員研修会を3回開催した。

##### 3.家庭学習の充実

- ・全国学力・学習状況調査から家庭学習の分析を行い、教務主任会で意見交換をした。

##### 4.豊かな心を育む読書活動の推進

- ・読書タイムと読み聞かせ（小学校）を推進した。
- ・優良・優秀学校図書館認定事業を奨励した。

##### 5.放課後子ども教室の開催

- ・鶴嶺小学校、豊成小学校、福岡小学校、源小学校で開催した。
- ・東金市放課後子ども教室運営委員会を開催した。（7月・11月）

#### 成果(目標値)・評価

##### ①全国学力・学習状況調査における全国平均値の達成

- ・小学校は全国平均値と比べて、5ポイント程度低かった。

(『国語』全ての項目において平均的に低かったが、特に記述式に課題があった。)

(『算数』量と測定に課題があり、記述式に難を示していた。)

- ・中学校は全国平均と比べて3～10ポイント低かった。

(『国語』「話すこと聞くこと」の正答率が他の項目と比べて低かった。)

(『数学』「数と式」の正答率が他の項目と比べて低かった。)

(『英語』全国平均と大きな差はなかったが「書くこと」の生徒率が比較的低かった。)

## ②千葉県標準学力検査における千葉県平均値の達成

- ・小学校は、千葉県平均値と大きな差は見られなかった。

中学校は、新型コロナウイルス感染症予防のため、3年生のみの実施となったため、全体的な傾向をとらえることができなかった。

教科別では、小学校の「社会」、「理科」で県平均値を上回った。

- ・各校で千葉県平均値を達成するための観点を、小学校では20項目、中学校では15項目を設定し、その半数以上を達成するよう努力目標を決め、授業改善等を図るよう各校に指示徹底に努めた。

(小学校評価観点は20項目⇒1・2年の検査教科は、「国語」、「算数」の2教科・

3年以上の検査教科は、「国語」、「算数」、「社会」、「理科」の4教科)

(中学校評価観点は15項目⇒検査教科は3学年とも5教科(「国語」・「数学」・「社会」・「理科」・「英語」)

- ・一人ひとりのニーズに応じた指導のために、「学習サポーター」及び「きめ細かな指導のための非常勤講師」の派遣を県に要請し、市内8校延べ12人を配置した。また各校における「学力向上プランニングシート」の有効な活用方法について検討した。
- ・鶴嶺小学校、豊成小学校、福岡小学校、源小学校にて「放課後子ども教室」を開催した。

## ③家庭学習の進め方について、指針の作成の検討

- ・家庭学習の進め方については、各学校の実態に応じて進めている。各校の状況を把握し、効果的な方法について具体的な方針について検討した。

## ④蔵書の学校図書館標準100%の達成及びデータベース化に向けた準備

- ・優良・優秀図書館認定事業への積極的な参加を促している。令和元年度末、小学校7校、中学校3校が優良図書館として認定されている。また、データベース化に向けて準備を進めており、現在、市内各小学校においてデータベース化を終えている。

## 課題

基礎的・基本的な知識や技能の習得から、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力の育成に努めきた。具体的な取組として、「学力向上プランニングシート」や「全国学力・学習状況調査」の結果について客観的に自校の分析をするとともに、市全体として共通して取り組む内容等を検討していった。全国学力・学習状況調査においては学校により結果が大きく違いがあり、東金市としての取組の柱を明確にしていく事が今後の課題であるとする。また、「学力向上プロジェクト会議」を年2回開催し、各学校の取組を把握するとともに、より効果をあげるための指導助言を行った。学習サポーター等の指導のための人員確保が効果的であった。引き続き、学力向上に係る組織的な取組を強化すると共に、指導のための人材確保に努めていく。家庭学習については、すでに指針や

手引を作成して取り組んでいる学校の成果と課題を市全体で共有し、より良いものを示すよう検討していく。

**重点施策 1 - (2) 特別支援教育の推進**

特別な支援を必要とする子どもが、早期からの教育相談と支援を受けられるようにするための支援体制を整備する。

**(1)事業展開**

- 1.校内体制の整備
- 2.保育補助や特別支援教育支援員の力量の向上
- 3.就学前の子どもたちの就学相談の充実

**(2)目標（値）**

- ①特別な支援が必要な子どもの個別の指導計画の作成
- ②保育補助、特別支援教育支援員の研修機会の実施
- ③関係機関と連携しての就学相談の充実

**取組（事業展開）****1.校内体制の整備**

- ・特別な支援が必要な子どもの個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成した。

**2.保育補助や特別支援教育支援員の力量の向上**

- ・特別支援教育支援員を対象とした「説明会」「研修会」を開催した。
- ・各幼稚園、各学校を訪問し、支援の状況を確認し、助言した。

**3.就学前の子どもたちの就学相談の充実**

- ・「就学相談の手引」を作成し、個別面談・学校見学・「ことばの検査」を実施した。

**成果（目標値）・評価****①特別な支援が必要な子どもの個別の指導計画の作成**

- ・特別支援学級に在籍する全ての児童・生徒について「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を作成した。
- ・普通学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒のうち、約8割について「個別の教育支援計画」を作成した。

**②保育補助、特別支援教育支援員の研修機会の実施**

- ・特別支援教育支援員に係る「説明会」を1回、「研修会」を2回開催し、その力量向上に努めた。

**③関係機関と連携しての就学相談の充実**

- ・「就学相談の手引」を改訂し、就学前児の保護者に配布した。
- ・簡易マザーズホームにおいて、保護者を対象に就学について説明をした。
- ・「特別支援教育ネットワーク会議」、「教育支援委員会」を開催し、情報の共有と適切な就学相談を行うための根拠を明確にした。
- ・就学前児の保護者等との面談や学校見学の企画・同行を行った。
- ・各保育所・幼稚園を訪問し、就学前児全員を対象に「ことばの検査」や「ことばの相談会」を行った。

## 課題

特別な支援を必要とする子どもが、早期からの教育相談と支援を受けられるようにするための支援体制を整備した。具体的には、連続性のある多様な学びの場を提供するために、「東金市特別支援教育ネットワーク会議」や「東金市教育支援委員会」等、関係諸団体の連携を強化し、適切な就学指導をするための会議の充実を図った。また、幼稚園、保育所等を訪問し、就学相談の充実を図ったが、今後連携の更なる強化に努めていく。

「就学相談の手引」については、改訂し、一人ひとりの特性に応じた支援ができることを周知した。特別支援教育支援員を32人、1校当たり2.62人を配置したが、今後、各学校のニーズに応じて適切な配置ができるよう、状況確認を行い、効果的に活用していく。また、支援員の研修内容を見直し、実践力が高められるように工夫していく。

千葉県から派遣される特別支援アドバイザーを活用する各幼稚園や小中学校が増えた分、派遣までに期間を要するなど、希望する期間に派遣してもらえない状況があるため、東金特別支援学校や簡易マザーズホームへのアドバイザー要請を検討したい。

**重点施策 1－（3）情報教育の推進**

I C T機器を活用した多様な学習の場を設けることにより、子どもたちの思考力・表現力・判断力等の育成と向上を目指す。

**(1)事業展開**

1. I C Tを効果的に活用した子どもたちの主体的な学びの実現
2. I C T活用のために必要な教育環境の充実
3. S N Sの利用等に関する情報モラル教育の推進

**(2)目標（値）**

- ①全国学力・学習状況調査において「コンピュータ等を活用して子ども同士が教え合う学習や課題発見・解決型の授業を行っている」の回答率増加
- ②I C T教育推進のために必要な周辺機器の整備
- ③I C T教育に関する研修会の実施

**取組（事業展開）**

1. I C Tを効果的に活用した子どもたちの主体的な学びの実現
  - ・I C T活用法やプログラミング教育等にかかわる研修会を企画・運営した。
2. I C T活用のために必要な教育環境の充実
  - ・プログラミング教育のためのアプリケーションをインストールした。
3. S N Sの利用等に関する情報モラル教育の推進
  - ・I C T教育推進委員会において、情報モラル教育の教材の提供を行った。

**成果（目標値）・評価**

- ①全国学力・学習状況調査において「コンピュータ等を活用して子ども同士が教え合う学習や課題発見・解決型の授業を行っている」の回答率  
この質問は、隔年の調査となります。

	基準値(H27年度)	R1年度
小学校	88.90%	
中学校	25.00%	

- ・タブレットやコンピュータ教室を活用し、様々な教科の授業を行った。
  - ・SNS利用を中心とした情報モラル教育について、いじめにつながる案件を防ぐため、小学校高学年の児童と中学校の生徒及び保護者を対象に実施した。
- ②I C T教育推進のために必要な周辺機器の整備
    - ・全小・中学校に配置したタブレットに、プログラミング教育に必要なアプリケーションを追加し、学習を開始した。
    - ・各校の校内L A Nやアクセスポイントについて、点検・整備を行った。

### ③ ICT教育に関する研修会の実施

- ・各学校のICT担当教諭を対象とした研修を年3回、小・中学校全職員を対象とした授業公開を行い、タブレット等ICT機器を活用した指導方法の工夫・改善に向け研修を行った。

#### 課題

ICT担当者を対象とした研修や全職員を対象とした授業公開研修は、ICTをより活用していくために効果的であった。学習指導要領の改正により小学校では2020年からプログラミング教育が導入され、タブレット用アプリケーションの活用方法や授業用実践についてさらに研修を進める。同時に、1人1台端末を活用するGIGAスクール構想について、導入の目的と運用について研修の場を計画していく。

ICT機器を活用した多様な学習の場を設け、「主体的・対話的で深い学び」のツールとなるよう、子どもたちの思考力・判断力・表現力等の定着と向上につながる活用方法を目指す。

今後は、文部科学省から示された5カ年計画の目標に準ずると同時に、GIGAスクール構想について1人1台端末の導入とLAN回線等の環境を早急に整備する。そして、活用方法については、各校ICT担当を中心に研究していく必要がある。

いじめ防止の上でも喫緊の課題となっている情報モラル教育は、関係機関や企業と連携を図りながら各学校に指導・助言を行う。また、新入生説明会や保護者会、PTAを活用し、保護者向けにも情報提供や研修会を行っていく。



**重点施策 1－（４）国際教育の推進**

国際化が進展する今日において、異文化理解を深め、他者を尊重し、協働するためのコミュニケーション能力等を育成する。

(1)事業展開

- 1.研修内容の充実
- 2.城西国際大学との連携の推進
- 3.2020年東京オリンピック・パラリンピック事業への参加検討

(2)目標（値）

- ①実践的な研修や小・中学校を見通したカリキュラムの検討
- ②チューター制度を活用した城西国際大学との連携の推進
- ③2020年東京オリンピック・パラリンピック事業への参加

**取組（事業展開）**

**1.研修内容の充実**

- ・東金市小学校英語指導研修会を1回開催した。
- ・東金市英語指導助手研修会を1回開催した。

**2.城西国際大学との連携の推進**

- ・鶴嶺小学校において英語活動を実施した。

**3.2020年東京オリンピック・パラリンピック事業への参加検討**

- ・東京オリンピック・パラリンピックに関するポスター募集を呼びかけた。
- ・「I'm POSSIBLE」を活用した授業の取組の資料提供を行った。

## 成果（目標値）・評価

### ①実践的な研修や小・中学校を見通したカリキュラムの検討

- ・新学習指導要領の実施に向け、各小・中学校の教務主任を対象に、カリキュラム・マネジメント等について研修を行った。
- ・小学校英語の評価について、指導と評価の一体化を図るための学習評価の改善点について各学校の代表者が集まって検討した。また、『読むこと』『書くこと』の効果的な指導法について話し合った。

### ②チューター制度を活用した城西国際大学との連携の推進

- ・城西国際大学担当者と協議し、チューター制度を活用した学習支援を行う予定であったが、城西国際大学の学生との連携がうまくいかず、充実したものにはならなかった。今後、効果的な連携方法の必要がある。

### ③2020年東京オリンピック・パラリンピック事業への参加

- ・東京オリンピック・パラリンピックに関するポスター募集を呼びかけにより、東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まっている。令和元年度に市内各小学校において東京オリンピック・パラリンピックの参観を予定していた。また、福岡小学校において北京サッカー協会3年生との交流集会や交流授業を行い、国際教育についての推進を図った。

## 課題

東金市小学校英語指導研修会を継続して開催し、小学校3学年から6学年までを担当する教員が参加できる機会を設ける。指導法や評価の在り方等、新たな情報について近隣市町村と情報交換をしながら各小・中学校へ情報を継続的に提供していく。

現在、チューター制度は、各小・中学校のニーズと城西国際大学の学生のニーズをすりあわせることで成立しているが、今後、大学担当者とも協議を重ねることで有効な運用を図り、各学校の教育課程の中に、城西国際大学の多くの学生や外国人留学生等が関われるような具体的な方策を模索する。

東京オリンピック・パラリンピック事業への参加については、県や市全体の動向を見ながら各学校の教育課程の中に位置づけられるよう検討していく。

## 基本目標 2 自他を思いやる、豊かな心を育成する

【所管：学校教育課】

### 重点施策 2 - (1) いじめ対策の推進

家庭と連携を図りながら、学校の全教育活動を通して、子どもたちに自他を思いやる豊かな心を育成する。

#### (1) 事業展開

1. 「いじめ問題対策室」の設置
2. 「子どもの心を大切にするアンケート」の実施
3. 「子どもと親の相談員」の配置
4. 「東金市いじめ問題防止マニュアル」を基にした教職員の研修の実施

#### (2) 目標（値）

- ① 全国学力・学習状況調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている」の回答率増加
- ② 子どもの心を大切にするアンケートにおいて「学校生活を楽しく過ごしている」の回答率増加
- ③ 子どもと親の相談員等の相談窓口の周知と組織対応の充実
- ④ 生徒指導に関する研修会の実施

#### 取組（事業展開）

##### 1. 「いじめ問題対策室」の設置

- ・ 電話や来庁による相談を 292 件受け付け、対応した。

##### 2. 「子どもの心を大切にするアンケート」の実施

- ・ 市内全小・中学生の保護者を対象に実施し、校長を通じて回収した。  
各校の回答をまとめ、全学校を担当指導主事が訪問し、改善策等についての協議や具体的な指導を行った。

##### 3. 「子どもと親の相談員」の配置

- ・ 小学校に 3 人、中学校に 1 人を配置し、小学校は各校 175 日間の勤務で合計 546 件、中学校は各校 150 日間の勤務で 165 件の相談を行った。
- ・ また、クラス替えのあった小学校 5 年生、中学校 2 年生については、全員面談を行った学校もある。

##### 4. 「東金市いじめ問題防止マニュアル」を基にした教職員の研修の実施

- ・ 各学校に、年に 1 度学校いじめ防止基本方針の見直しを図るよう指示をした。また、「学校だより」や保護者会等で保護者にも周知すると共に、各学校のホームページに掲載するように指導をした。

## 成果（目標値）・評価

### ①全国学力・学習状況調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている」の回答率増加

	基準値(H27年度)	R1年度
小学校	95.20%	96.60%
中学校	93.60%	93.70%

- ・互いのよさを認め合い、共感的な人間関係となるような学級経営・生徒指導に向け、各校、研修等を実施した。令和元年度は小中学校共に基準値を上回った。
- ・「いじめ」について、道徳の授業だけではなく、あらゆる教科・学校生活、集会や面談等の中で関連付け、日常的に自己肯定感を大切にすると同時に、相手を思いやるような人間関係を大切にすることを軸に、指導・支援を行った。

### ②子どもの心を大切にするアンケートにおいて「学校生活を楽しく過ごしている」の回答率増加

	基準値(H27年度)	R1年度
小学校	97.00%	96.00%
中学校	95.30%	93.70%

- ・学校生活の中で、より良い人間関係の構築や友だちとの関係性の向上について、常に意識できるような場づくりを設け、学級や学校への帰属意識を高めるようにした。
- ・学級全体に対し、意図的に自己決定の場や自己肯定感を得られる場を設定し、共感的な人間関係を築けるよう児童・生徒の意欲を喚起した。今後、個に視点をあて、一人ひとりへの支援のあり方を検討していく必要がある。

### ③「子どもと親の相談員」等の相談窓口の周知と組織対応の充実

- ・「子どもと親の相談員」を効果的に配置・運用ができるよう月に1回実態を把握するために情報交換を行い、研修を年に3回行い、意識の高揚を図った。
- ・新入学生の説明会や入学式、保護者会や「学校・学年だより」等を活用し、相談員の活動についての周知をした。学級担任が、教育相談の機会にも周知活動を行った。
- ・学校教育課内に設置している「いじめ・生徒指導窓口」にて相談活動を充実させた。

### ④生徒指導に関する研修会の実施

- ・小・中・高等学校連携の生徒指導主任を対象とした情報交換会と研修を、年3回実施した。
- ・小・中学校連携生徒指導研修会を、年1回実施した。
- ・各学校に周知した「東金市いじめ問題防止マニュアル」の確認を行い、各学校のいじめ防止基本方針を年に1回見直すと共に、ホームページへ掲載するよう指導した。
- ・月に1回開催している長欠・教育相談連絡会議において、スクールソーシャルワーカーを招聘し、家庭環境の複雑化、養育の困難さに対応するための研修を行った。

## 課題

生徒指導関係の研修会では、虐待対応のための関係機関との連携について、子どもの安全・安心を図るため研修を行った。今後も継続して情報提供をしていきたい。

教育委員会に設置されている「いじめ・生徒指導相談窓口」では、延べ292件の相談を受けた。引き続き、窓口の周知に努め、いじめの未然防止・早期発見、対応に努めていきたい。

また、保護者を対象とし、毎年6月に実施している「子どもの心を大切にするアンケート」と、その対応により、いじめの早期発見・対応に効果が現れている。今後も、いじめの積極的な認知と早期対応の徹底を図り、重大な事態に至らないように各学校と連携していく。同時に保護者の声に対応することで、より良い関係構築に結びつける機会とする。

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、生涯学習課、子育て支援課、児童相談所、県警の生活安全課等とのネットワークを生かし、必要に応じた適切な対応ができるように情報を共有し、関係機関への接続をすすめていく。

## 重点施策 2 - (2) 生徒指導の充実（長欠・不登校解消に向けた取り組みの充実）

家庭と連携を図りながら、魅力ある学校・学級づくりに心がけ、長欠・不登校の解消を目指す。

## (1)事業展開

1. 学校内の教育相談体制の充実
2. 学校における不登校児童・生徒に対する支援の推進
3. 関係機関による不登校児童・生徒支援体制の充実

## (2)目標（値）

- ①不登校出現率の減少
- ②全国学力・学習状況調査において「学校に行くのは楽しいと思っている」の回答率増加
- ③長欠・教育相談連絡会議の充実

## 取組（事業展開）

## 1.学校内の教育相談体制の充実

- ・月に1回「長欠・教育相談会議」を開催し、長欠対策の体制の確認と相談、長欠の未然防止に係る研修を行った。

## 2.学校における不登校児童・生徒に対する支援の推進

- ・長欠・不登校児童・生徒の実態把握に努め、教育委員会での面談や電話相談、家庭訪問等を行い、適応指導教室や学校への復帰を後押しした。

## 3.関係機関による不登校児童・生徒支援体制の充実

- ・こども課、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、訪問相談担当教員、山武郡市教育相談センター、中核生活支援センター、児童相談所、外房少年センターとの連携の充実に努め、組織的な対応を密にしている。

## 成果（目標値）・評価

## ①不登校出現率の減少

	基準値(H26年度)	R1年度
小学校	0.66%	0.98%
中学校	2.14%	5.53%

- ・子どもと親の相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問相談担当教員、こども課や家庭教育相談室等と連携して、不登校児童・生徒の出現防止や早期解決に努め、昨年度より若干、増加し、基準値を上回っている現状である。
- ・台風による休校なども影響し、生活リズムを崩してしまった児童・生徒もいた。新型コロナウイルス感染症に係る休校もあり、今まで以上に個別支援会議を開催する等の手立てを早急にすすめる。

## ②全国学力・学習状況調査において「学校に行くのは楽しいと思っている」の回答率 →この質問は、隔年の調査となります。

	基準値(H27年度)	R1年度
小学校	84.50%	86.60%

中学校	80.20%	79.60%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒が「行きたい」と思う学校を目指し、校長の描くビジョンの実現に向け、教職員が共通理解のもと、児童・生徒が自己肯定感を高められ、過ごしやすい学校づくりを意識した取組を継続している。</li> <li>・生徒指導の機能を生かした授業内容や学校行事等の充実により、学級や学校への所属感や自己有用感を高める努力を今後も継続していく。</li> </ul> <p><b>③長欠・教育相談連絡会議の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回「長欠・教育相談会議」を開催し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、中核地域生活支援センター等関係機関と情報交換を行うとともに、長期欠席の未然防止と早期発見・解消に向けて、組織的な連携を行った。</li> <li>・関係機関との連携についての研修を行い、組織的な体制づくりをすることで、様々なアプローチができるように支援を行っている。</li> </ul>		
<p><b>課題</b></p>		
<p>長欠に係る不登校の出現率は、小学校、中学校ともに増加した。各学校での丁寧な取組と関係機関との連携により、改善が図られた児童・生徒がいた一方で、新たに長欠となった児童・生徒もいた。</p> <p>依然として長欠や不登校の原因は、子ども自身のことだけでなく、その背景にある家庭環境等、複雑な要因があり、各学校でも対応に苦慮している。学校と保護者だけでは解決の糸口が見つからないため、外部機関との接続を含め、個別支援会議を設けていく必要がある。</p> <p>学校ができることは、一人ひとりの児童・生徒にとって、「魅力ある学校」とすることであり、そのためには、一人ひとりにきちんと向き合い、指導の改善を図ることである。教育長や学校教育課が学校を訪問し、学校経営の状況を把握し、指導・助言することで改善されてきている。</p> <p>月1回開催している「長欠・教育相談会議」は、各校の情報交換と関係外部機関との連携し、予防的な対応の具体的な手立てとその効果を検証する場としている。「長欠・教育相談会議（対策チーム）」の充実を図るため、特に未然防止に特化した研修を取り入れ、関係機関との連携を強化している。</p>		

## 重点施策 2 - (3) 道德教育の推進

学校の全教育活動を通して、道德性を高める実践的人間教育を推進する。

## (1)事業展開

- 1.地域とともに道德性を高める活動の推進
- 2.マナーやルールを学ぶ機会の充実
- 3.効果的な道德の時間の進め方についての指導・研修

## (2)目標（値）

- ①全国学力・学習状況調査において「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている」の回答率増加
- ②全国学力・学習状況調査において「学校のきまり・規則を守っている」の回答率増加

## 取組（事業展開）

## 1.地域とともに道德性を高める活動の推進

- ・学校運営懇談会を各小・中学校2～3回開催した。
- ・中学生による地域清掃ボランティアを実施した。

## 2.マナーやルールを学ぶ機会の充実

- ・各小・中学校において授業規律の確立に向けた指導を実施した。

## 3.効果的な道德の時間の進め方についての指導・研修

- ・城西幼稚園が「特色ある道德教育推進校」として研究・取組を行った。

## 成果（目標値）・評価

## ①全国学力・学習状況調査において「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている」の回答率増加

- ・平成29年度からこの質問項目が無くなり、「人の役に立つ人間になりたいと思いませんか」という質問に代わった。この質問項目に対して、（当てはまる）・（やや当てはまる）と回答する児童・生徒の割合は、小学校で94.6%（前年度より+0.9）、中学校で92.6%（前年度より-1.3）となった。

	全国	千葉県	東金市
小学校	95.2%	94.9%	94.6%
中学校	94.3%	93.9%	92.6%

## ②全国学力・学習状況調査において「学校のきまり・規則を守っている」の回答率増加

	全国	千葉県	R1年度(前年度比)	H30年度
小学校	92.3%	92.7%	89.9%(↑)	87.80%

- ・昨年度と比べ、小・中学校ともに回答率は上昇した。また、全国・千葉県の数値とも大きな差はなかった。



#### ◇地域とともに道徳性を高める活動の推進

- ・福岡小学校と東中学校が、東金市教職員研修会で道徳の研究授業を公開した。市内から多くの教職員が参加し、「考え、議論する道徳」の授業の在り方や指導と評価の統一性について検討し、実践力を高めた。
- ・東金中学校、西中学校、北中学校は、地域の方と一緒に地区内清掃作業を行った。
- ・全ての学校で「学校運営懇談会」を年2～3回開催し、児童・生徒の地域での様子を含めた話し合いを行った。

#### ◇マナーやルールを学ぶ機会の充実

- ・各学校において基本的な生活習慣やコミュニケーション能力を高めることを意識した授業や活動を行った。

#### 課題

道徳の教科化を踏まえ指導及び評価の方法について引き続き研究を進めていく。また、各校がより一層充実した研修を進めることができるよう最新の情報を提供するとともに、各学校が円滑に完全実施できるように支援していく。

東金市教職員研修会において、小・中学校それぞれ1校ずつが特別の教科「道徳」についての研究授業を公開し、児童・生徒が『考え議論する道徳』の授業展開から道徳に対する実践力を高めていきたい。

**基本目標 3 健やかな体を育成するとともに、体力の向上を図る**

【所管：学校教育課】

**重点施策 3 - (1) 学校体育の充実**

子どもたちが生涯にわたって、運動やスポーツに慣れ親しむための態度や能力を育成する。

(1)事業展開

- 1.体力向上推進校を中心とした学校体育の充実・指導法の改善
- 2.全国体力・運動能力、運動習慣等調査の活用
- 3.部活動支援
- 4.スポーツ環境の整備

(2)目標（値）

- ①全国体力・運動能力、運動習慣等調査における全国平均値の達成
- ②千葉県体力・運動能力テストにおける県平均値の達成
- ③全国体力・運動能力、運動習慣等調査における1週間の総運動時間が「60分未満」の児童・生徒の減少（小5男女、中2男女）

**取組（事業展開）**

- 1.体力向上推進校を中心とした学校体育の充実・指導法の改善
  - ・ブロック体育の研究指定校（豊成小学校）における研究授業を公開した。
  - ・体育の授業マイスター認定事業のDVD等の貸出しを実施した。
- 2.全国体力・運動能力、運動習慣等調査の活用
  - ・本調査結果における東金市の概要を各小・中学校に提供した。
- 3.部活動支援
  - ・外部指導者及び城西国際大学の学生と連携し支援した。
- 4.スポーツ環境の整備
  - ・各小中学校が「オリンピック・パラリンピック教育実施校（ようい、ドン！スクール）」に登録し、オリンピック・パラリンピックを活用した教育を実施した。

**成果（目標値）・評価**

①全国体力・運動能力、運動習慣等調査における全国平均値の達成

握力(kg)、上体起こし(回)、長座体前屈(cm)、反復横とび(点)、20mシャトルラン(回)、50m走(秒)、立ち幅とび(cm)、【小】ソフトボール投げ(m)・【中】ハンドボール投げ(m)＜8項目＞

- ・小学校：男女ともに「上体起こし」「50m走」「立ち幅とび」の3種目が全国平均を上回った。
- ・中学校：男子は「反復横とび」「50m走」「立ち幅とび」の3種目が全国平均を上回った。また、女子では「20mシャトルラン」「50m走」の2種目が全国平均を上回った。

- ・小学校では、基礎体力・運動技能の向上を図るために、教科体育での指導方法の工夫を行い、運動量を確保するとともに、業間及び昼休みにおいて、「遊・友（ゆうゆう）スポーツランキングちば」や時間走等に取り組んだ。
- ・中学校では、教科体育や運動部活動において計画的・継続的に指導することで、基礎体力や運動能力の向上を図った。特に、教科体育では、剣道等の武道やダンス等で、生徒の意欲を引き出し、達成感を得ることで生涯スポーツへの継続を図った。

## ②千葉県体力・運動能力テストにおける県平均値の達成

握力(kg)、上体起こし(回)、長座体前屈(cm)、反復横とび(点)、20mシャトルラン(回)、50m走(秒)、立ち幅とび(cm)、【小】ソフトボール投げ(m)・【中】ハンドボール投げ(m)<8項目>

- ・小学校では、6年男子は「上体起こし」「50m走」が県平均値を上回った。6年女子は「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」が県平均値を上回った。
- ・中学校では、3年男子の「握力」「長座体前屈」「反復横とび」「50m走」「ハンドボール投げ」の5項目が県平均値を上回った。女子の体力・運動能力が、「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」が県平均を上回ったが、1年生をピークにして低下する結果となった。

## ③全国体力・運動能力、運動習慣等調査における1週間の総運動時間（体育・保健体育は含まない。）が「60分未満」の児童・生徒の減少（小5男女、中2男女）

	全国	千葉県	R1年度(前年度比)	H30年度	目標値(R2年度)
小5男	3.60%	4.20%	6.40%(↓)	3.40%	5%以下
小5女	4.70%	5.80%	5.30%(↑)	6.40%	
中2男	5.20%	6.10%	10.10%(↓)	9.30%	
中2女	13.40%	15.20%	16.50%(↓)	15.40%	

### ◇学校体育の充実及び部活動支援

- ・ブロック体育の公開授業により、指導法の工夫について情報を共有した。
- ・西中学校、東中学校、北中学校では、外部指導者による部活動の支援を行った。
- ・「オリンピック観戦チケット」利用等オリンピック・パラリンピックを活用した教育を行った。

### 課題

小学校では、5・6年生において全国平均や県平均を数種目で上回る結果となった。一方、中学校では、十分な結果とはならなかった。特に女子については、1年生をピークにして体力及び運動能力の低下が顕著であった。今後は、中学校における女子体育の充実が重要である。

運動習慣については、中学校において1週間の総運動時間が「60分未満」の生徒の割合が増加している。部活動に参加しない児童・生徒に対しても、保健体育や体育的行事等を通して運動に親しむ態度の育成を行う。また、地域人材を外部指導者として活用することを視野に入れ、学校体育の充実を図るとともに、ICTを活用した家庭内での継続的な運動の促進や地域での運動や活動機会の増加を図るための組織づくりをしていくことが大切であると考えられる。

## 重点施策３－（２）健康教育の充実

子どもたちが生涯にわたって健康で充実した生活を営む能力を身につけるため、健康の保持増進に対する意識を高め、望ましい生活習慣を身につける。

## (1)事業展開

- 1.学校教育全体を通じた健康教育の推進
- 2.養護教諭やゲストティーチャーによる「健康教育」の授業実践
- 3.家庭や地域と連携した健康教育の推進

## (2)目標（値）

- ①肥満傾向児の出現率減少
- ②虫歯の治療処置率の向上

## 取組（事業展開）

## 1. 学校教育全体を通じた健康教育の推進

- ・身体計測等各種検査（健診を含む。）を実施した。
- ・小学校における「歯みがき教室」を実施した。（健康増進課歯科衛生士による。）
- ・薬物乱用防止教室を実施した。

## 2.養護教諭やゲストティーチャーによる「健康教育」の授業実践

- ・城西国際大学薬学部教授及び学生による薬物乱用防止教室を実施した。  
（東小学校、城西小学校、豊成小学校、福岡小学校）

## 3.家庭や地域と連携した健康教育の推進

- ・各小・中学校にて「学校だより」や「保健室だより」等を発行した。

## 成果（目標値）・評価

## ① 肥満傾向児の出現率減少

	全国	千葉県	R1 年度(前年度比)	H30 年度	目標値(R2 年度)
小5 男	10.63%	8.23%	11.4%(↓)	14.2%	7%以下
小5 女	8.46%	7.14%	11.8%(↑)	6.6%	
中2 男	9.63%	8.51%	13.0%(↑)	12.7%	
中2 女	7.88%	6.26%	11.9%(↑)	4.7%	

- ・小5男以外について、肥満傾向がとても高い結果となった。
- ・肥満傾向の児童・生徒については、個人面談を実施し、食生活等、基本的な生活習慣の見直しについて指導した。
- ・各学校において、「保健だより」、「給食だより」等を基に肥満や生活習慣病について指導した。また、児童・生徒による保健委員会や給食委員会では、健康や食についての提案や発表を行った。

## ② 虫歯の治療処置率の向上

R1 年度(前年度比)	H30 年度	目標値(R2 年度)
46.1%(↑)	43.2%	30%以上

- ・昨年度と比較すると、処置率が向上した。今後も、各学校において、年間指導計画を基に、養護教諭による指導や「保健だより」等による啓発を進めていく。

### 課題

肥満及び肥満傾向の児童・生徒の減少を目標とし、各学校において年間指導計画を基に、養護教諭が健康に関する指導を継続することはもちろん、栄養教諭・栄養職員とも連携しながら食育に関する専門的な知識を身につけられるよう指導していく。

虫歯の治療処置率については、昨年度より大幅に向上した。今後は、関係機関（健康増進課や学校医、学校歯科医）との連携を図り、より効果的な指導や保護者への啓発を進めていく。

「薬物乱用防止教室」については、全中学校で実施した。また、城西国際大学薬学部の教授及び学生による薬物乱用防止教室を東小学校、城西小学校、豊成小学校、福岡小学校で実施した。今後も継続して学校薬剤師や城西国際大学との連携を図っていく。

各学校の「学校だより」や「保健室だより」、「給食だより」等では、季節に応じた内容を盛り込み、児童・生徒及び保護者に対する啓発を行っていく。

**重点施策 3 - (3) 食育の推進**

子どもたちが、食に関する正しい知識と望ましい習慣を身につけられるよう、食に関する指導の充実を図る。

**(1)事業展開**

- 1.学校教育全体を通じた食育の推進
- 2.栄養教諭・栄養士による指導
- 3.地産地消食材を使用した給食の提供の推進
- 4.望ましい食習慣づくりのための家庭や地域への啓発活動

**(2)目標（値）**

- ①「毎日朝食を食べる」児童・生徒の割合の向上
- ②「食育に関する授業」の実践

**取組（事業展開）****1.学校教育全体を通じた食育の推進**

- ・食に関する指導に係る全体計画の整備について栄養教諭や栄養士に指示をし、食に関する指導内容を系統的に確認させた。

**2.栄養教諭・栄養士による指導**

- ・朝食に関する調査結果を子どもたちに還元させ、「給食だより」や学級への献立紹介プリント、給食委員会による校内放送を通じて、食に関する知識等を周知するように指導した。

**3.地産地消食材を使用した給食の提供の推進**

- ・地産地消給食を月に1～2回行い、産地や特徴、料理法や歴史等を紹介し、子どもたちが興味をもって食べられるような食育をするよう、栄養教諭や栄養士に指導した。

**4.望ましい食習慣づくりのための家庭や地域への啓発活動**

- ・「給食だより」や給食の試食会等の機会を活用し、学校給食の目的を伝え、朝食の内容についてのアンケート結果や改善すべき点、地産地消給食のレシピ紹介を行うよう、栄養教諭や栄養士に指導した。

**成果（目標値）・評価****①「毎日朝食を食べる」児童・生徒の割合の向上**

基準値(H27年度)	R1年度	目標値(R2年度)
80.40%	83.50%	90%以上

- ・朝食についてのアンケートを全児童・生徒対象に行い、その結果を基にした朝食の大切さに関する食育の授業を行っている。

また、「給食だより」、「保健だより」、「学級・学年・学校だより」を通じて、児童・生徒にとって望ましい食生活・食習慣のためにどうすべきか、家庭や地域に周知・広報活動を行った結果、令和元年度も基準値を上回った。

## ②「食育に関する授業」の実践

- ・「朝食に関する授業」を児童・生徒に向けて実施した。
- ・「朝食」に関する研究を栄養士会で継続して行い、各学校の食育全体計画を基に、栄養教諭や栄養士と連携し、朝食の重要性や栄養価等に関する授業を行った。

### 課題

朝食の欠食や、食事内容の偏りや野菜摂取量の不足は、貧血を招き、午前中の倦怠感や不定愁訴につながるものが懸念されている。また、食生活の乱れや肥満や痩身傾向等、健康を取り巻く問題も深刻化している。

そこで、食に関する正しい知識と望ましい習慣を身につけられるよう、各学校で食に関する指導の充実を図っている。

具体的には、栄養職員（栄養教諭及び栄養士）が朝食に特化したアンケート調査を継続して行い、その結果を生かした授業を、各学校の状況に応じて展開してきた。また、栄養士会が中心となり、地産地消食材を使用し、工夫した給食を定期的に提供し、児童・生徒の食への関心を高めることができた。

今後についても、このような活動を教育課程の中にしっかりと位置づけ、不規則な生活習慣を見直すためにも保護者を含めた食育の在り方について、学校でどのように行っていくか検討していく。

## 基本目標 4 家庭・地域・学校の連携を強化する

【所管：学校教育課】

### 重点施策 4－（１）地域に開かれた特色ある学校づくりの推進

学校を核とした地域コミュニティの構築と、地域と連携した安心で信頼される学校づくりの推進を目指す。

#### (1)事業展開

- 1.情報発信
- 2.東金版コミュニティ・スクールの充実
- 3.安全・安心な学校づくり

#### (2)目標（値）

- ①ホームページの更新等情報発信の充実
- ②東金版コミュニティ・スクールの充実
- ③保護者・地域と連携した安全・安心な学校づくりの推進

#### 取組（事業展開）

##### 1.情報発信

- ・「学校だより」や各校のホームページにより充実を図った。

##### 2.東金版コミュニティ・スクールの充実

- ・「学校運営懇談会」（東金版コミュニティ・スクール）を定期的開催し、内容の充実を図った。

##### 3.安全・安心な学校づくり

- ・関係機関と連携した通学路合同点検を継続した。
- ・「学校安全計画」の定期的な見直しを行った。

#### 成果（目標値）・評価

##### ①ホームページの更新等情報発信の充実

- ・校長会議や教頭研修会等において、「学校だより」や各校のホームページの定期的な更新及びより一層の充実について働きかけた。
- ・ホームページ作成の効率化を目指し、情報の収集を行った。

##### ②東金版コミュニティ・スクールの充実

- ・全ての小・中学校において学校運営懇談会（東金版コミュニティ・スクール）を年2～3回開催した。
- ・より良い学校づくりを目指し、各学校の特色や課題に応じた話し合いが行われるようになった。

##### ③保護者・地域と連携した安全・安心な学校づくりの推進

- ・関係機関と連携した通学路合同点検や各校ごとの安全点検や交通指導により、安全・安心な学校づくりに努めた。
- ・「学校安全計画」を定期的に見直し、避難訓練等により実効性を確認した。



## 課題

学校を核とした地域コミュニティの構築と、地域と連携した安心で信頼される学校づくりの推進を目指し、各学校では「学校だより」による情報発信を定期的に行い、地域や家庭からも好評を得ている。ホームページの運用については、徐々に定着してきているが、学校によっての活用状況に差があるため、今後、更新や管理を効率的に進めるための効果的な方法についてさらに検討していきたい。

子どもや家庭・地域から信頼される学校運営を進めるために「東金市学校運営懇談会」（東金版コミュニティ・スクール）を開催し、組織的な評価・改善に取り組んでいる。活動の内容が、各学校の特色や課題に対応したものとなっており、より良い学校経営に結びついている。

今後、ミニ集会や学校公開日等を情報交換の場と位置づけることで、より実効性のあるものへと改善していく。

安全・安心な学校づくりのために、交通安全や不審者対応等について、防犯ボランティアや関係機関との連携を目指し、「安全・安心メール」等を活用した情報共有を図っていく。また、避難所運営マニュアルについて各学校で共通理解が深まり、今後より具体的な方法を策定して実用性のあるものにしていきたい。

**重点施策４－（２）学校評価の充実**

子どもや家庭・地域から信頼される学校運営を進めるために、自己評価や学校関係者評価を基に学校運営の改善に努める。

**(1)事業展開**

- 1.評価方法・評価項目の検討
- 2.評価結果の公表の工夫
- 3.学校運営懇談会の活用

**(2)目標（値）**

- ①評価方法・評価項目の検討
- ②評価結果の公表を工夫
- ③学校関係者評価委員会等の組織を学校運営懇談会に統合

**取組（事業展開）****1.評価方法・評価項目の検討**

- ・各学校の評価方法や評価項目、結果等の情報を収集した。
- ・共通項目の設定について検討した。

**2.評価結果の公表の工夫**

- ・全ての小・中学校において「自己評価」の公表に向け取り組んだ。
- ・「学校関係者評価」の公表する割合を増加させた。

**3.学校運営懇談会の活用**

- ・学校評価に対する学校運営懇談会のあり方について検討した。

**成果（目標値）・評価****①評価方法・評価項目の検討**

- ・各学校の評価項目を比較し、今後の方針を検討した。

**②評価結果の公表の工夫**

- ・「学校だより」やホームページを活用した公表に取り組んだ。
- ・全ての小・中学校において「自己評価」、「学校関係者評価」を行った。
- ・「自己評価」については、全ての小・中学校が公表。「学校関係者評価」については、学校運営懇談会等の場で、全ての小中学校が実施。

**③学校関係者評価委員会等の組織の学校運営懇談会への統合**

- ・全小・中学校で「学校運営懇談会」を複数回開催し、その中で「学校関係者評価」を行った学校が多い。

**課題**

子どもや家庭・地域から信頼される学校運営を進めるために、学校評価を実施して「自己評価」や「学校関係者評価」を基に学校運営の改善に努めてきた。また、結果を「学校だより」やホームページで公表した。評価方法や評価項目については、各校に任せている

が、教育委員会の指導の重点を加味した評価項目について共通項目を設ける等して、経年経過を分析できるように働きかけていき、改善の様子が目に見えるようにする。

また、東金版コミュニティ・スクールである「東金市学校運営懇談会」が学校関係者評価の場として有効に機能した。今後も、学校運営懇談会において、学校評価から見られる課題を検討し、解決方法を学校に答申し、実行の手助けができるような体制の整備を行う。

## 重点施策４－（３）家庭・地域の教育力の向上

家庭でのしつけ方や教育のあり方が問われている一方、地域とのつながりが希薄になっている。心身ともに健やかな子どもの成長を図る上で、親の果たす役割は大きく、親の教育力・コミュニケーション能力の向上を高める学習機会の充実を図る。

## (1)事業展開

- 1.保護者や地域住民への情報提供
- 2.1000カ所ミニ集会等への参加の推進
- 3.家庭教育学級の充実
- 4.親業訓練講座、講演の実施
- 5.親業スキルアップ講座、講演の実施（協働）

## (2)目標（値）

- ①子育てに関する情報の提供の充実
- ②1000カ所ミニ集会や保護者会等への参加の推進
- ③家庭教育学級の充実
- ④親業訓練講座の充実

## 取組（事業展開）

## 1.保護者や地域住民への情報提供

- ・ホームページを通して子育てに関する情報の提供を行った。

## 2.1000カ所ミニ集会等への参加の推進

- ・学校と地域住民が学校・家庭・地域のさまざまな教育問題について、市内の小・中学校を会場にして集会等を実施した。

## 3.家庭教育学級の充実

- ・市内の8幼稚園にて、家庭の教育力向上のため保護者及び幼児に対し、講話や体験実技などの講座を開催した。

## 4.親業訓練講座・講演の実施

- ・親業に係る特別講演会を実施した。

## 5.親業スキルアップ講座等の実施（協働）

- ・令和元年度は実施無し。

## 成果（目標値）・評価

## ①子育てに関する情報の提供の充実

- ・ホームページにより、子育てに関する情報提供を行ったことで市民への周知が図られた。

## ②1000カ所ミニ集会や保護者会等への参加の推進

- ・市内の小・中学校で18集会を実施した。学校の適正な運営のため、PTAや地域団体と意見交換を行った。

### ③家庭教育学級の充実

基準値(H26年度)	R1年度	目標値(R2年度)
768人	497人	780人

- ・市内8幼稚園にて、家庭の教育力向上のため保護者及び幼児に対し、講話や体験実技など15講座を開催し、497人が参加した。

### ④親業訓練講座の充実

基準値(H26年度)	R1年度	目標値(R2年度)
55人	6人	60人

- ・複数日の受講日程が必要となる入門講座に代え、親業に係る講演会(2時間)を開催した。

### 課題

親子間の会話や地域内での連携は子育てにおいて重要と考え、親の教育力及び子どもとのコミュニケーション能力を向上させる上で、必要な項目を4点掲げ取り組んできた。教育委員会(学校・生涯学習課)及び家庭教育関係者と共に、学習機会の情報発信からその実施までにわたり事業の推進が図られたが、予算及び実施規模の縮減に伴い参加者は減少している。

家庭教育学級については講座数・参加者数ともに減少が続いており、原因の把握と事業見直しの参考とするため企画実施の主体となる市内8幼稚園にアンケートを実施した。結果から各園が参加者の減少や講師の確保などに課題を感じていることが読み取れたことから、令和2年度は事業を休止し、他自治体の実施状況聴取などにより実施方法や内容の再検討を図る。

親業訓練講座については、受講者がより手軽に参加できるよう2時間の講演会へと形態を切り替えて事業を実施したが、受講者数の増加には繋がらなかった。このため、講演時間などを変更することで、受講者にとって参加しやすい環境を検討していく。また、問合せの際に受講者個人で託児先を確保することが難しく、受講を諦めざるを得ないとの声も聞かれたことから、令和2年度は業務委託による託児サービスを実施する予定である。

**重点施策 4－（４） 学校施設の整備・充実**

未来を担う子どもたちが集い、生き生きと学び、生活する場であり、地域住民にとっては、非常災害時には避難生活のよりどころとなる学校施設の整備・充実を図る。

**(1)事業展開****1.長寿命化改修の推進****(2)目標（値）**

- ①老朽化対策等の改修工事完了
- ②室内環境・空調設備等の環境整備完了
- ③食の安全 小学校給食施設の整備方針等検討
  - ・小学校給食施設整備方針
  - ・学校給食衛生管理基準適合施設への整備方針
  - ・単独校・共同調理場の方針

**取組（事業展開）****1.長寿命化改修の推進**

- ・老朽化対策等の施設の改修については、修繕の緊急性や利便性を考慮し、必要に応じて工事を行った。

**成果（目標値）・評価**

- ① **老朽化対策等の改修工事完了**
  - ・豊成小学校校舎渡り廊下の外壁防水修繕等を行った。また、西中学校及び北中学校の武道館天井改修工事を発注し、着手した。
- ② **室内環境・空調設備等の環境整備完了**
  - ・小学校（普通教室）空調設備の導入に向けて工事が完了した。
  - ・幼稚園（保育室）空調設備の導入に向けて工事が完了した。
- ③ **食の安全 小学校給食施設の整備方針等検討**
  - ・学校給食衛生管理基準に適合した給食施設の整備へ向けて、保健所・学校教育課と検討した。また、東小学校給食室屋根防水の修繕、城西小学校給食室の漏水修繕、東金中学校給食棟配膳室等のエアコン修繕等を実施した。

**課題**

昭和50年代に建築された施設の大規模な改修工事については、現在策定中の長寿命化計画との関連を含めて考え、今後の施設の予防保全、維持管理に努める。

幼稚園・小学校における残りの空調設備の設置については、引き続き交付金の要望を行い、早期に設置し、施設の環境整備・充実を図る。

【生涯学習・歴史文化の柱】

生きがいをもって学び、ふるさとに誇りをもてる人づくり

基本目標5 人づくりから始まる生涯学習の推進を図る

【所管：生涯学習課】

重点施策5－（1）多様な学習機会の提供

今日の自由時間の増大などの社会の成熟化に伴い、心の豊かさや生きがいのための学習需要が高まっているため、時代のトレンドや市民ニーズに対応した情報、講座、体験学習などの学習機会を提供することで、充実したライフスタイルの支援や人材育成を図る。

(1)事業展開

- 1.生涯学習「データバンク」の活用
- 2.生涯学習情報誌「ときめき」の発行
- 3.公民館各種サークル情報及び図書館だよりによる情報提供

(2)目標（値）

- ①生涯学習データバンク登録団体数の増加
- ②生涯学習の情報提供について、より幅広い提供を検討

取組（事業展開）

1.生涯学習「データバンク」の活用

- ・活用の向上を図るため、市民へ情報提供しているホームページ等により周知した。

2.生涯学習情報誌「ときめき」の発行

- ・年3回（各6,000部）の発行を行い、区長回覧を行うとともに市内外の公共機関や民間施設等に配布し、生涯学習の情報を広く市民に提供した。

3.公民館各種サークル情報及び図書館だよりによる情報提供

- ・公民館だより「どきどき」、図書館だよりを通して、市民へ情報を提供した。

成果（目標値）・評価

①生涯学習データバンク登録団体数の増加

基準値(H27年度)	R1年度	目標値(R2年度)
67団体	31団体	70団体

- ・市民の学習環境をサポートするため、生涯学習の活動を行っている指導者23人・31団体を登録・公表した。

②生涯学習の情報提供について、より幅広い提供を検討

- ・生涯学習の情報を広く市民に提供するため、生涯学習情報誌「ときめき」を年3回発行し、区長回覧を行うとともに市内外の公共施設や民間施設等に配布した。また、その他

の情報提供の手段として、「長生・山武地域イベント情報」などを活用し広域での情報提供も行った。

#### 課題

多様な学習機会の提供として、いくつかの施策を実施しているが、生涯学習データベースについては登録者が高齢となり活動を休止している団体の増加や、利用問合せが減少していることからうまく機能していない状況となっている。このため、今後のあり方を検討するに当たっては、廃止を含めた事業の見直しも必要と考える。

また、市民活動については地区公民館が地域活動として登録しているもの、地域振興課が「市民活動ガイドブック」で取りまとめているもの、社会福祉協議会で登録しているものなど、いくつも情報提供があるため、今後、情報の一元化により利用者の使いやすいものを検討する必要がある。



**重点施策５－（２）青少年健全育成の推進**

家庭・地域社会との連携により、青少年の健全育成を地域で支える体制づくりを進める。また、青少年の団体活動、交流活動への参加機会の拡充を図り、仲間や地域の人々とのふれあいを通じて成長を促す。

**(1)事業展開**

- 1.青少年相談員連絡協議会活動の実施（協働）
- 2.子ども会育成協議会活動の実施（協働）
- 3.あづみの探検隊の実施
- 4.ジュニアリーダースクラブ活動の実施（協働）
- 5.青少年育成東金市民会議等による青少年育成団体の活動支援

**(2)目標（値）**

- ①関係団体との連携により、青少年の健全育成に資するイベント等の実施継続

**取組（事業展開）****1.青少年相談員連絡協議会活動の実施（協働）**

- ・青少年健全育成標語表彰式、夏の交通安全教室、防犯パトロール、夢の教室事業（青少年育成東金市民会議と共催）、ウォークラリー大会等の実施を支援した。

**2.子ども会育成協議会活動の実施（協働）**

- ・房総子どもかるた東金大会、子ども会中央大会（ドッチビー大会）等の実施を支援した。

**3.あづみの探検隊の実施**

- ・長野県安曇野市の雄大な自然の中で自然体験プログラムを実施した。また、長野県安曇野市からの小学生訪問団を東金市へ受け入れ、東金市小学生（あづみの探検隊参加者）との交流事業を行った。

**4.ジュニアリーダースクラブ活動の実施（協働）**

- ・ジュニアリーダー養成講座、サマーキャンプ等の実施を支援した。

**5.青少年育成東金市民会議等による青少年育成団体の活動支援**

- ・青少年健全育成チラシの配布、夢の教室事業（青少年相談員連絡協議会と共催）、創作体験教室（親子参加の教室）の開催を支援した。

**成果（目標値）・評価****①関係団体との連携により、青少年の健全育成に資するイベント等の実施継続****◇青少年相談員連絡協議会活動の実施**

- ・青少年健全育成標語募集 応募者：1, 931人（市内小学5・6年生、中学生）
- ・夏の交通安全教室 参加者：約200人

- ・防犯パトロール 実施1回 (YASSA フェスティバル)
- ・夢の教室事業 参加者：110人 (鵜嶺小5年73人、日吉台小5年37人)  
※青少年育成東金市民会議との共催
- ・ウォークラリー大会 参加者：86人

◇子ども会育成協議会活動の実施

- ・房総子どもかるた東金大会 参加者：149人
- ・子ども会中央大会 (ドッチビー大会) 参加者：65人

◇あづみの探検隊の実施

- ・安曇野市小学生交流事業 参加者：市内小学生22人、安曇野市小学生10人
- ・あづみの探検隊 参加者：東金市小学生22人

◇ジュニアリーダースクラブ活動の実施

- ・ジュニアリーダー養成講座 ジュニアリーダー参加者：延べ10人  
小学生参加者：延べ11人

(内訳)	ジュニアリーダー	参加者 (小学生)
第1回 (6月開催)	3人	4人
第2回 (8月開催・兼サマーキャンプ)	7人	11人

第3回 (10月開催) は台風上陸のため、第4回 (3月開催) は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、それぞれ中止した。

- ・サマーキャンプ 小学生の参加者：11人

◇青少年育成東金市民会議等による青少年育成団体の活動支援

- ・夢の教室事業 参加者：110人 (鵜嶺小5年73人、日吉台小5年37人)  
※青少年相談員連絡協議会との共催
- ・創作体験教室 参加者：親子15組46人  
東金青年の家において、ピザ作りとデコパージュのバッグ作りの体験を行った。
- ・青少年健全育成チラシ (インターネット利用の仕方) の配布  
市内小学4～6年生、中学生の保護者向け 約3,000部

課題

主に小・中学生を対象とした各種事業を開催し、参加機会の拡充を図ることができた。青少年健全育成の啓発には、幅広い世代に周知することも必要となるため、事業参加型募集だけに留まらず、事業支援ボランティアの活用も含めて検討していく。

**重点施策５－（３）公民館事業の充実**

子どもから高齢者まで、幅広く生涯学習活動に取り組むきっかけの場として、様々な講座等を実施し、また学習意欲の向上と継続の場として、更には人と人とのつながりを広げることで、生涯にわたる生きがい作りの機会を提供する。

**(1)事業展開**

- 1.公民館主催事業の実施
- 2.貸館事業の実施
- 3.公民館の改修事業の実施

**(2)目標（値）**

- ①公民館の利用者増と利用者満足度の向上
- ②中央公民館稼働率の増加

**取組（事業展開）****1. 公民館主催事業の実施**

- ・年間講座、夏休み講座、冬休み講座、単発講座の計14事業を実施した。  
ウクレレ教室、絵手紙教室、童謡唱歌教室等、前年度からの継続事業を実施した。

**2. 貸館事業の実施**

- ・令和元年度においては、中央公民館は3, 142件、地区公民館は5, 662件(7館計)の貸館を実施した。

**3. 公民館の改修事業の実施**

- ・公民館利用者が安全・安心に利用できる施設を提供するため、令和元年度においては中央公民館3階第2和室エアコン工事、正気公民館トイレ改修工事等の施設改修工事を実施した。

**成果（目標値）・評価****①公民館の利用者増と利用者満足度の向上**

- ・利用団体数

	基準値(H26年度)	R1年度	目標値(R2年度)
中央公民館	73団体	67団体	80団体
地区公民館	145団体	136団体	160団体

- ・令和元年度においては、中央公民館は67団体、地区公民館は136団体となり基準値よりも減少した。
- ・また、利用者満足度の向上のため実施している公民館主催事業のアンケートでは、満足度が86.3%という結果であった。

## ②中央公民館稼働率の増加

基準値(H26年度)	R1年度	目標値(R2年度)
42.1%	36.47%	50%

- ・令和元年度は、36.47%と稼働率が減少した。これは、令和元年9月～10月にかけて発生した台風・豪雨による災害の影響で公民館を一次避難所として開設したこと、加えて、令和2年3月に新型コロナウイルス感染予防対策のため、サークル団体等に活動自粛を要請したことにより、利用者が減少したためである。

## 課題

公民館の利用団体数については、減少傾向にあり、これは利用団体の高齢化による活動休止が影響しているためであるが、今後は新規サークルの利用促進を図る。

なお、令和元年度においては新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けており、今後は施設を安全・安心に利用できる環境の構築及び利用者への感染予防対策の周知・徹底が必要であると考えます。

また、主催事業においては、主催事業全体の参加者数が減少しており、これは各主催事業の実施規模の縮減に伴うものである。しかし、各主催事業の満足度は総じて高く、比較的安定した講座参加者数を得ることが出来たことから、適宜各主催事業のカリキュラム等の見直しを行い、安定した参加者数の確保及び満足度向上に努める。

公民館の施設改修については、一部の公民館を除き平均築40年が経過し、施設の老朽化が著しく進行している状況であり、それに伴い施設の改修件数及び費用も増加傾向にある。引き続き施設の改修を実施し、安全・安心な施設として利用できるよう施設の維持管理に努める。

## 重点施策５－（４）図書館事業の充実

利用者の多種多様なニーズに応えられるよう図書館資料を充実させるとともに、各種主催事業を展開することを通じて、図書館利用者の増加を図る。

また、老朽化が進んだ図書館の適正な補修管理を行い、安全で良好な読書環境を整備する。

## (1)事業展開

- 1.図書館資料の充実
- 2.各種主催事業の実施
- 3.図書館耐震補強工事の実施

## (2)目標（値）

- ①図書館資料の充実、利用者の増加
- ②図書館耐震補強工事の実施

## 取組（事業展開）

## 1.図書館資料の充実

- ・東金市図書館資料収集基準に基づき図書等を購入し、寄贈資料取扱要領により寄贈を受け、資料除籍基準により除籍を実施した。

## 2.各種主催事業の実施

- ・ブックスタート、おはなし会、図書館こどもフェスタ、一日図書館員、冬のおたのしみ会、教養講座、本のリサイクル、ライブラリーカフェ等を実施した。

## 3.図書館耐震補強工事の実施

- ・他の公共施設の耐震補強工事との兼ね合いもあり、令和元年度の実施は不可能なため、予算要求を見合わせた。

## 成果（目標値）・評価

## ①図書館資料の充実、利用者の増加

- ・貸出冊数

基準値(H26年度)	R1年度	目標値(R2年度)
258,210冊	234,163冊	283,000冊

- ・図書を3,803冊購入し、471冊の寄贈を受け除籍が3,109冊あった。DVDは17枚購入し、1枚寄贈を受け11枚を除籍した。CDは35枚購入し、1枚寄贈を受け1枚を除籍とした。
- ・現在の蔵書数は153,838冊・DVD770枚・CD1,402枚

## ◇各種主催事業の実施

・ブックスタート	11回	268人
・おはなし会	46回	410人
・としょかんこどもフェスタ	1日	230人
・一日図書館員	10回	46人
・冬のおたのしみ会	1日	77人

・教養講座	1回	27人
・本のリサイクル (廃棄本等の無料提供)	1回	2,727冊
・ライブラリーカフェ	2日	97人

## ②図書館耐震補強工事の実施

- ・他の公共施設に係る耐震整備の優先順位等の影響により予算化が厳しい状況となっている。
- ・耐震対策として、予算の範囲において、一部の書架に対して転倒防止対策を行った。

## 課題

蔵書冊数等については、昨年度よりも1千冊程度増加しており、収蔵スペース不足を解消する為、積極的な除籍を進めるよう取り組んでいる。

貸出冊数については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月から臨時休館の措置を取ったこと、また、雨天による移動図書館の中止が多かったこと等により基準値を大幅に下回る要因があったものの、近年、伸び悩んでいる傾向があり、利用者のリクエストに応えたり、人気や話題の作品を積極的に取り揃えて貸出冊数の増加につなげたいと考えている。

また、絵本の読み聞かせを行うおはなし会や小学生を対象とした一日図書館員、講師を招いての教養講座などの各種事業を実施し、アンケート等を行いながら改善点を探り、事業内容を充実させて利用者の増加につなげたいと考えている。

このほか、利用者が安全・安心できる読書環境の整備のため、東金市第4次総合計画の中で耐震補強工事を位置づけて早期の完了を目指す。

## 重点施策 5－（5）城西国際大学との連携

多様な市民の学習ニーズに対応するため、城西国際大学と連携し、専門的な教育資源の活用を図る。

## (1)事業展開

- 1.公開講座の実施（協働）
- 2.生涯学習情報誌「ときめき」による情報提供

## (2)目標（値）

- ①公開講座の参加者数の増加

## 取組（事業展開）

## 1.公開講座の実施（協働）

- ・教養講座2回及びパソコン講座2コースを実施した。

## 2.生涯学習情報誌「ときめき」による情報提供

- ・生涯学習情報誌「ときめき」誌面を通して、水田美術館や大学の生涯教育センター等の情報提供を行った。

## 成果（目標値）・評価

## ①公開講座の参加者数の増加

基準値(H27年度)	R1年度	目標値(R2年度)
103人	98人	120人

- ・教養講座2回（参加者延べ31人）及びパソコン講座2コース（参加者延べ67人）を実施した。教養講座のテーマは市民の要望を参考に毎回大学と協議し、またパソコン講座も基礎から学べるように開催した。
- ・参加者を募るため、広報とうがねへの掲載の他、講座内容を掲載したチラシを作成し、市内公共施設へと配布すると共に、区長回覧を実施し広く市民へ周知を行った。

## 課題

城西国際大学との連携はその専門性を活かし、市民のニーズを考慮し事業の実施を行った。また本市の生涯学習情報誌「ときめき」を利用して美術館や生涯教育センター等の情報提供も行っている。

事業への参加は恒常的にみられるが、その講座内容によって参加人数が左右されるため、そのニーズの分析が重要になる。

大学との連携は東金市の教育の発展のため、協働も含めて有効に活用していくことが重要であり、今後は講座の開催だけでなく幅広い分野において連携できるよう協議していく必要がある。

**基本目標 6 歴史・文化を活用した地域力の向上を図る**

【所管：生涯学習課・公民館】

**重点施策 6－（１）芸術文化団体活動の推進**

市民に対して優れた芸術文化に親しめる機会を増やし、多様な文化活動を通じて交流が深められるよう、文化活動の支援を図る。

(1)事業展開

- 1.文化祭（文化展・芸能大会）の開催（協働）
- 2.地区文化祭の開催（協働）
- 3.文化団体協議会の活動支援

(2)目標（値）

- ①まい・舞・はやしフェスタ入場者数の増加
- ②東金市文化祭入場者数の増加

**取組（事業展開）**

**1.文化祭（文化展・芸能大会）の開催（協働）**

- ・文化祭の参加者による「文化振興実行委員会」を中心に企画運営を図った。

**2.地区文化祭の開催（協働）**

- ・地区公民館にて、地元の文化活動の促進及び施設の活用のため、地区文化祭を開催した。

**3.文化団体協議会の活動支援**

- ・同団体への事業支援及び市の文化祭を協働で開催した。

**成果（目標値）・評価**

①まい・舞・はやしフェスタ入場者数の増加

基準値(H26年度)	H30年度	目標値(R2年度)
776人	808人	800人

- ・令和元年度は開催年度ではなかった。



## ②東金市文化祭入場者数の増加

	基準値 (H26 年度)	R1 年度	目標値 (R2 年度)
文化展	1,223 人	723 人	1,300 人
文化芸能大会	1,058 人	905 人	1,100 人

- ・文化展は23の団体と2個人が参加、文化芸能大会では28の団体が参加し、入場者総計は1,628人であった。参加者による文化振興実行委員会及び東金市文化団体協議会と企画運営を図り、来場者の導線確保等展示方法の工夫、クリスマスにちなんだ飾り作成や川柳作成等体験コーナーの設置を行った。
- ・地区公民館の活用と活性化のため、4か所の地区公民館にて市民と協働で、地区文化祭を開催した。

## 課題

市内にある無形民俗文化財伝承保存団体や芸術文化団体に発表の場を設けることは、その伝統、技術、歴史の継承、そして団体・地域の活性化の観点からも重要である。例年、文化祭などへ多くの市民が参加しており、全体的に高齢化もみられるが、若年層の参加も徐々に増えている。

今後は、地区公民館活動の充実、世代間交流を推進する事業の展開（中学生・高校生の文化祭への参加促進）などを通して、若年層に対しても魅力ある活動をアピールし、地域一体となった事業の支援を図る。

## 重点施策 6－（2）郷土の歴史と文化の保存・活用

市内に残る歴史と文化は市民の財産と認識し、その収集・保存・活用に努めることで、次代に継承することが図られ、地域への愛着と誇りを育む。また郷土芸能への支援及び発表の機会を設けることで、その継承と周知普及、そして後継者育成が図られる。

## (1)事業展開

1. 関寛斎講演会及び「東金歴史展」の開催（協働）
2. 歴史講演、文化財解説板等による普及促進
3. 生涯学習情報誌「ときめき」等による文化・歴史の情報提供
4. 文化財審議会等による文化財調査
5. 地域の歴史資料の編纂業務

## (2)目標（値）

- ①地域の歴史文化を「まちづくり」に活かすため、その収集及び活動の場の創出
- ②歴史資料の保存と市民への還元を目的に、市史編纂事業に向けた資料の整理・保存

## 取組（事業展開）

## 1.関寛斎講演会及び「東金歴史展」の開催（協働）

- ・ 地元の歴史研究愛好会と協働で、関寛斎の生誕記念講演会及び歴史展示を実施した。

## 2.歴史講演、文化財解説板等による普及促進

- ・ 専門家による歴史講演は、台風の影響により中止した。市内に所在する指定文化財等を周知するため、解説板の設置を行った。

## 3.生涯学習情報誌「ときめき」等による文化・歴史の情報提供

- ・ 生涯学習情報誌「ときめき」や文化財ガイドブック、市ホームページ、東金市デジタル歴史館等を利用して情報発信を行った。

## 4.文化財審議会等による文化財調査

- ・ 市内に残る文化財の調査を行い、その活用を検討した。

## 5.地域の歴史資料の編纂業務

- ・ 寄贈・寄託された資料の保管・保存に努めた。

## 成果（目標値）・評価

## ①地域の歴史文化を「まちづくり」に活かすため、その収集及び活動の場の創出

- ・ 地元の歴史愛好団体と協働で、関寛斎講演会（170人参加）、令和元年10月より「東金市菱沼土屋家文書から見た関寛斎とその周辺」（会場は文化会館常設展示室）を開催した。
- ・ 千葉県文書館出前講座を利用して歴史講演を実施予定であったが、台風の影響により中止した。また、市民の要望を受け「水野茂右衛門について」の解説板を設置した。

## ②歴史資料の保存と市民への還元を目的に、市史編纂事業に向けた史料の整理・保存

- ・ 寄贈された歴史資料や新たに発見された資料を、地元の歴史研究愛好会と協働で整理し、東金文化財保管庫に保存した。

・生涯学習情報誌「ときめき」に文化・歴史の情報を掲載し、区長回覧及び市内外の諸施設等に年3回配布した。また、昨年度に引き続き東金市デジタル歴史館による歴史資料公開を行い、東金の文化・歴史の情報発信を行った。

#### 課題

郷土の歴史文化に関わる資料の展示、講演等の事業については、地元の歴史保存団体や文化財審議会等との協働が定着し、活発になってきている。大きな課題としては、高齢化が著しく、若い世代層の事業参加が求められる。将来的に世代間交流ができるイベント・事業を通して後継者の育成を図る。

歴史資料の整理・保存は、地元の歴史研究愛好会と協働で一部行った。また、歴史資料の公開・活用については、東金市デジタル歴史館に歴史資料を追加した。今後もデジタル歴史館を活用して東金の文化・歴史を、市民のみならず全国に発信し、歴史資料を観光資源として活用していくことを目指す。

## 重点施策 6－（3）文化施設の利用促進

文化活動や芸術活動など多様な活動の拠点となる文化会館施設を安全・安心に活用できるよう常に整備を行い、施設環境を整え各種活動の支援を図る。

## (1)事業展開

- 1.東金文化会館の管理運営
- 2.施設の修繕、改修

## (2)目標（値）

- ①東金文化会館の指定管理者と連携を図り、事業の開催等その効果の検証
- ②東金文化会館利用者数の増加

## 取組（事業展開）

## 1.東金文化会館の管理運営

- ・市民が優れた芸術文化に触れる場や市民の文化活動の発表の場を提供するとともに市民サービスの向上を図るため管理運営を指定管理者に委託した。

## 2.施設の修繕、改修

- ・文化会館施設を良好な状態に保ち、利用者が安全で快適に利用できる施設を提供するため、トイレ洋式化工事や大ホール排煙窓、小ホール客席照明などの修繕・改修を行った。

## 成果（目標値）・評価

## ①東金文化会館の指定管理者と連携を図り、事業の開催等その効果の検証

- ・指定管理者による自主事業、共催事業、興行事業などを実施した。良質な芸術文化事業の実施を通して市民へ文化振興の普及に努め、多くの方に利用いただいた。

## ②東金文化会館利用者数の増減

基準値(H26年度)	R1年度	目標値(R2年度)
141,069人	122,526人	145,000人

- ・令和元年度の重点事業として自主事業15事業、共催事業12事業を実施し、地域住民の文化芸術の振興に努めた。

## 課題

文化会館の利用者数は9月の台風や年度末の新型コロナウイルス感染拡大防止による利用中止や臨時休館により大きく減少した。新型コロナウイルス感染症の影響が続き「新しい生活様式」での運用や国内情勢を鑑みながらではあるが、できることを考慮し、市民に安全・安心で魅力ある文化施設として利用されるよう事業の開催について検討していく。

指定管理者と連携し、安全・安心な使用のための修繕、改修を行い施設の維持管理に努めているが、施設や設備の老朽化及びバリアフリー化等に対する計画的な対応が課題である。今後も事業の開催等について指定管理者と連携し、文化会館施設の有効活用を図る。

## 【スポーツ振興の柱】

### 健やかで活力に満ちたライフスタイルの支援

#### 基本目標 7 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの推進を図る

【所管：スポーツ振興課】

#### 重点施策 7- (1) スポーツ・レクリエーション活動の充実と推進

スポーツ・レクリエーションは、体力づくり・健康づくりに大切であるばかりではなく、地域間交流や世代間交流の推進、地域コミュニティの活性化などの面からも、大きな役割が期待されている。

こうした中で、「いつでも、どこでも、いつまでも」誰もが気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーション体験の場を提供し、その普及・振興を図る。

##### (1)事業展開

1. ニュースポーツ大会の開催
2. 市民のスポーツ大会・イベントの開催
3. スポーツ教室の実施

##### (2)目標（値）

- ① スポレクデーの参加者数の増加

#### 取組（事業展開）

##### 1. ニュースポーツ大会の開催

- ・ スポレクデーを開催した。

##### 2. 市民のスポーツ大会・イベントの開催

- ・ 令和元年10月13日（日）に市民体育祭を開催予定であったが、台風15号の影響を考慮し中止した。
- ・ 40年ぶりに大相撲東金場所が行われた。

##### 3. スポーツ教室の実施

- ・ 城西国際大学陸上競技部による陸上教室を開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響を考慮し中止した。

#### 成果（目標値）・評価

##### ① スポレクデーの参加者数の増加

基準値(H26年度)	R1年度	目標値(R2年度)
397人	500人	600人

- ・ ボッチャ、ユニカールをはじめ、9種目の初心者向けニュースポーツの紹介や体カテストを行うなど、スポーツへのきっかけづくりを行った。

##### ◇ その他のスポーツ大会・イベント

- ・ 令和2年2月24日（月・祝）に2020東金・九十九里波乗りハーフマラソンを開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響を考慮し中止した。

#### 課題

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの人が集まるスポーツ大会やイベントが中止又は延期を余儀なくされているが、東京オリンピック・パラリンピックは2021年の開催を目指し準備が進んでいる。本市においても令和2年度は市主催のスポーツイベントを中止したが、令和3年度は感染症対策を徹底し、誰でも気軽に参加できる事業を実施する方向で検討を進める。

## 重点施策 7- (2) 関係団体との連携とスポーツ指導者の養成

スポーツ関係団体との連携を密にし、講習会等の開催によりスポーツ指導者の確保、育成を図り、指導者の資質の向上を目指す。

## (1)事業展開

- 1.スポーツ指導者研修会の開催等による指導者の資質の向上
- 2.スポーツ指導者の有効な活用
- 3.総合型地域スポーツクラブの活用
- 4.関係団体との連携強化

## (2)目標（値）

- ①スポーツリーダーバンク登録指導者等の有効な活用がされるよう、効果的な情報発信
- ②スポーツリーダーバンク登録者数の増加

## 取組（事業展開）

## 1.スポーツ指導者研修会の開催等による指導者の資質の向上

- ・2020 東金・九十九里波乗りハーフマラソンにおいて、「千葉真子さん」によるトークショーや城西国際大学の陸上部による陸上教室を予定していたが、大会の中止により開催できなかった。

## 2.スポーツ指導者の有効な活用

- ・スポーツリーダーバンク登録指導者の継続登録に向けて取り組んだ。

## 3.総合型地域スポーツクラブの活用

- ・(一社)東千葉スポーツクラブの協力のもと、各種スポーツ教室を開催した。

## 4.関係団体との連携強化

- ・体育協会、スポーツ推進委員会、(公財)東金文化・スポーツ振興財団と連携を図りながら、スポレクデー等のスポーツ事業を開催した。

## 成果（目標値）・評価

## ①スポーツリーダーバンク登録指導者等の有効な活用がされるよう、効果的な情報発信

- ・スポーツリーダーバンク登録指導者が減少している中で、今後、有効な活用方法や効果的な情報発信について検討した。

## ②スポーツリーダーバンク登録者数の増加

- ・スポーツリーダーバンクに登録している指導者で、登録期間が3年を経過する指導者に対して、継続登録意向調査を実施した。

## ◇スポーツリーダーバンク登録者数の増加

基準値(H26年度)	R1年度	目標値(R2年度)
18人	9人	25人

## ◇総合型地域スポーツクラブの活用

- ・(一社)東千葉スポーツクラブと連携し、ノルディックウォーキング、太極拳等の教室の場を提供した。

◇関係団体との連携強化

- ・ 体育協会、スポーツ推進委員会、(公財)東金文化・スポーツ振興財団と連携を図り、各種スポーツ活動を推進・支援した。

課題

市民へのスポーツ振興には、スポーツ指導者の存在は大きな意味を持ち、今後その必要性は益々高まるものと認識している。

スポーツリーダーバンクについては、スポーツ界の著名人等を講師に招き、リーダー研修を行うなど、スポーツ指導者の資質向上に努めているが、登録指導者の減少や活動機会も少ないことから制度の見直しについて検討する。



## 重点施策 7 - (3) スポーツ施設の利用促進

スポーツ活動や健康維持活動など多様な活動の拠点となる東金アリーナ外 3 スポーツ施設を安全・安心に活用できるよう常に整備を行い、施設環境を整え、各種活動の支援を図る。

## (1)事業展開

- 1.指定管理者による施設の管理運営
- 2.施設の修繕・改修

## (2)目標（値）

- ①指定管理者と連携を図り、事業の開催等その効果の検証
- ②スポーツ施設（4施設）利用者数の増加

## 取組（事業展開）

## 1.指定管理者による施設の管理運営

- ・あらゆる世代の方が参加できる多様なスポーツ事業を企画・実施し、生涯を通してスポーツを楽しめる機会を提供した。

## 2.施設の修繕・改修

- ・利用者の利便性や修繕の緊急性を考慮し、エアコンや夜間照明等の修繕を実施した。

## 成果（目標値）・評価

## ①指定管理者と連携を図り、事業の開催等その効果の検証

- ・自主事業【22事業 延べ参加者合計10,684人】
  - あすなるチャレンジアップクラブ 延べ1,427人
  - エアロビクス教室（初・中級） 延べ1,215人
  - スポーツde合コン 27人 ほか
- ・共催事業【9事業 延べ参加者合計2,836人】
  - アリーナフットサルカップ 50人
  - シニアオープン卓球交流大会 100人 ほか
- ・その他、後援事業、協力事業として各種スポーツ事業を実施した。

## ②スポーツ施設（4施設）利用者数の増加

基準値(H26年度)	R1年度	目標値(R2年度)
223,922人	236,378人	230,000人

## 課題

令和元年度は、台風等の際に東金アリーナを避難所として開設したことや新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から施設の休業を余儀なくされたことにより、前年度と比較し利用者数が下半期を中心に減少した。現在も終息の見通しが立たない状況が続いていることから、指定管理者・利用者の双方に感染リスクを軽減させるための取組を徹底させる必要がある。

また、各施設とも老朽化が著しく故障が頻発していることから、利用者の利便性向上と施設の保全を図るため、計画的に各施設・設備の改修事業を進めていく必要がある。

**基本目標 8 2020東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの  
推進を図る**

【所管：スポーツ振興課】

**重点施策 8－（1）2020 東京オリンピック・パラリンピック 事前キャンプ誘致**

大会に参加する国や地域の選手団等の事前キャンプを誘致することにより、スポーツ活動や国際交流の推進、更には観光 PR など市のプロモーションを図り、もって市の活性化を目指す。

**(1)事業展開**

- 1.参加国、地域の事前キャンプ誘致活動
- 2.支援ボランティアの育成等

**(2)目標（値）**

- ①本市にとって国際理解教育等に有益な海外の参加国をキャンプ地として誘致

**取組（事業展開）**

**1.参加国、地域の事前キャンプ誘致活動**

- ・企画課及び千葉県と連携し「オリパラ CHIBA 推進会議」事前キャンプ誘致部会に、東金市、大網白里市、長柄町、リソル生命の森で構成する分科会を設置し、参加国、地域の事前キャンプ誘致を目指して活動した。

**2.支援ボランティアの育成等**

- ・令和元年度は、具体的な取組を行っていない。

**成果（目標値）・評価**

**①本市にとって国際理解教育等に有益な海外の参加国をキャンプ地として誘致**

- ・令和元年度は、ザンビア視察団、イスラエル視察団、オランダ視察団の視察を受け入れた。

**課題**

数多くの国の視察団を受け入れ、東金アリーナ本館や陸上競技場の視察が行われた。大変良い評価を得ているが、誘致の決定には至っていない状況である。

2021年に延期となった東京オリンピック・パラリンピックに向けて、引き続き関係機関と協力し、積極的に事前キャンプの誘致活動に取り組む。

## 重点施策 8 - (2) スポーツ人口の拡大

キャンプ地の誘致によるスポーツ熱の高まりをバネにスポーツ人口の拡大を図ることで、健やかで活力のあるまちづくりを目指す。とりわけ小・中学生から大学生を中心とする世代においてはこれを契機に国際感覚を身につけ、市民活動の活性化を促進する。

## (1) 事業展開

1. スポーツ教室等の開催
2. 市民交流事業の実施

## (2) 目標（値）

- ① 事前キャンプ誘致が一過性のイベントに終わらず、本市のスポーツ人口拡大の契機となるよう、継続的な取組の実施

## 取組（事業展開）

## 1. スポーツ教室等の開催

- ・親子レスリング体験教室を開催した。

## 2. 市民交流事業の実施

- ・サッカー松本山雅FCの冬季トレーニングキャンプを東金アリーナに誘致し、キャンプ期間中に小学生を対象とした「サッカークリニック」を企画した。
- ・ハーフマラソン事業において、アスリート3人のトークショーを企画した。

## 成果（目標値）・評価

## ① 事前キャンプ誘致が一過性のイベントに終わらず、本市のスポーツ人口拡大の契機となるよう、継続的な取組の実施

- ・スポーツへの関心を高めるため、アスリートとの交流事業を実施した。

## (1) 親子レスリング教室【参加者：50人】

東金市出身のプロレスラー永田裕志選手の協力により親子レスリング教室を開催した。

## (2) 東金市サッカークリニック

東金アリーナにて冬季トレーニングキャンプを実施していた松本山雅FCの協力により、小学生を対象としたサッカークリニックを企画したが、雨天により中止となった。

## (3) アスリートによるトークショー

ハーフマラソン事業において大会オフィシャルアンバサダーの「永田裕志さん」「永田克彦さん」ご兄弟とゲストランナーの「千葉真子さん」によるトークショーを企画したが、コロナウィルス感染症の影響により中止となった。

## 課題

今後もトップアスリートとの交流など、より多くの市民がスポーツへの関心を高められるような事業を継続的に実施する。また、プロチーム等によるトレーニングキャンプ地としての誘致を継続し、誘致できた際には参加選手等の協力を得て、次世代アスリートの育成のための技術レッスンなどが実施できるよう要請していく。